

だい きやまとし たぶんか きょうせいかいぎ だい かいかいぎ ろく ようやく
第4期大和市多文化共生会議 第2回会議録(要約)

にちじ ねん がつ にち ど
日時: 2016年3月12日(土)14:00~16:00

ばしょ やまと し やくしよぶんちようしゃ かいかいぎ しつ
場所: 大和市役所分庁舎2階会議室

しゅっせき いいん いしま いのみさと くする み こ しらとりせつろう
出席: 委員(石間フロレデリサ、猪野美里、ウプレティ マトリカ、楠瑠美子、白鳥節郎、
しやうじ たのいさいな ふかわたかつね ふじもとやす お やまと
東海林まりえ、田野井咲奈、ハゲイ パトリシア、府川貴恒、藤本康男) / 大和
し こくさい だんじよきやうどうさんかくか ふなこし おりかき みずお こうえきざいだんほうじんやまと し こくさい か
市国際・男女共同参画課(船越、折笠、水尾) / 公益財団法人大和市国際化
きやうかい さかい たなか こにし いしかわ いじょう めい
協会(酒井、田中、小西、石川) 以上17名

けっせき いいん いどうもとみ せやまり たかばやしあき こ ろほんす ようせいふん けいしやうりやく
欠席: 委員(伊藤素美、瀬谷麻里、高林明子、駱紅史、楊世芬)(敬称略)

ほうこうせい きやうゆう
1 方向性の共有

じ む きやく だい かいかいぎ ふ かえ おこな しつぎ おうとう おこな
事務局から第1回会議の振り返りを行いながら質疑応答を行った。

ごう い ごう したが
郷に入れば郷に従え

◆日本に住むアメリカ人の自治会長の「地域のイベントなどに参加して日本の社会に溶
け込むことが大事だ」「日本で暮らす外国人には『郷に入れば郷に従え』の考えを
実践してほしい」などの新聞記事を紹介し、意見交換を行った。【資料3】

○委員: 私も同じ考え方を持っている。日本語も何もわからないけれど、地域の行事
などにはなるべく参加しようと思っている。参加する姿勢を見せることで周りの人も助け
てくれるのではないか。

○委員: 「郷に入れば郷に従え」は強制するものではない。ただし、やり方やルールが変
われば、外国人も日本人も従わなくてはならない。

○委員: 100年前の日本人に聞いても、今の日本人に聞いても、(郷に従えという)日本
人の答えは同じだと思う。「郷に入れば郷に従え」という言葉は何だか堅苦しい。時代
とともにやわらかい言葉を入れたり、変えていったりしてもいいのではないか。(その言
葉を)ゴミ出しなり、日常生活にどうやって反映させていこうかが大事なのではないか。

○委員: 今日日本で暮らしている日系人は昔の日本の考え方を持っているのではないか
との意見があったが、そうではない。私の親世代は、戦後10年足らずで南米に移民し
たので、戦後間もない時代の日本語を習った。わたしが日本に来てみたら、親から聞
いていた日本語は使われていなかった。わたしのようにお侍さんが街を歩いていると
いう感覚で来日した日系人は多かったと思う。

○委員: 私の知っている限りでは、台湾のお年寄りが話す日本語はわれわれの日本語
とも違うようだ。ある意味、きれいな日本語を話す。韓国でも昔の日本語を話している。

これはおかしいことではない。理解すればいいだけ。ドイツ語も同じで、私が習ったドイツ語は昔のドイツ語で少し違った。

○委員：言葉は時代とともに変わっていくもので、ルールも時代とともに変えていかなくてはならないのでは。その辺は少し頭をやわらかく。でないと(外国人と日本人が)ともに生活していくのもむずかしいのではないか。

○委員：明治時代の言葉をわれわれが読むのはたいへん。江戸時代ならなおさら(むずかしい)。だから、学問として(明治時代の言葉を)読むのはまた別の話だが、スーパーで買い物するのにそんな(明治時代の)言葉は必要ない。どうやったら、(外国人が)生活しやすくなるか、といった点が大事。

○委員：「郷に従え」という言葉は従来から中国でも使われている言葉。中国から他の国に行ったら向こうのルールに従おうという意味。国によって習慣が違うので、自分の国で当たり前にしてきたことを他の国で当たり前にはいけないことがある、という意味合いでよく使う。かたいイメージとは少し違う。向こう(中国以外)の習慣、ルールを守ってうまくやっていこうよ、というニュアンス。

○事務局：とはいえ、「郷に入れば郷に従え」という言葉には強制力を感じる。多様性、ダイバーシティという観点があって、外国人のほかにも、コミュニティの中には子ども、高齢者、障害者、性的マイノリティといった人々が交じり合っていて、その一人ひとりの価値観は尊重すべき。(その人なりの価値観を尊重できないと)すべて(郷という)型にはめてしまう恐れがある。外国人の子どもも日本人と同じ公立学校に通うが、母語、母文化などは守ってほしいと願う外国人の保護者もいる。いろんな人たちの価値観は守られていくべきと思っている。

自分の国を簡単に捨てている人を信用できない

◆「お金とか暮らしやすさを求めてくる人には基本的に不信感がある。日本には先祖を敬う国民性があり、自分の国を簡単に捨てている人をあまり信用できない」などの新聞記事を紹介し、意見交換を行った。【資料3】

○委員：(この方は)外国に暮らした経験がないのかと思ってしまう。

○事務局：先祖を敬うという国民性は日本だけでなく、どの国にもあるものではないか。どこに住んでいるかはあまり関係がない。

○委員：外国人は留学や技術を学ぶためなど様々な理由で日本にやって来ている。いろんな目的がある。特に発展途上国からやってくる人は暮らしやすさ、経済的な成功を求めてやってくる人が多いのだと実感している。

○委員：お金を求めて日本に外国人がやってくることは日本によってもよるこばしいこと。

にほん き びんぼう は
日本に来て貧乏になるようなことがあったら恥ずかしい。

○委員：外国人は日本が住みやすいから日本に住み着いたと思う。

○委員：どこでも先祖を敬う国民性があるとは思いますが、外国人の一部はそうではないのかもしれない。

くに ほうせい び 国レベルで法整備するべきか

◆「多文化共生にはボランティアや自治体の努力に頼るだけでなく、国レベルでの法整備と社会統合政策が必要。真の多文化共生が実現できれば、日本に理解と愛着のある人材が社会の活力となり、文化的な豊かさ、グローバルな競争力の向上にもつながる」などの新聞記事を紹介し、意見交換を行った。【資料3】

○委員：国レベルの話をするのなら、教科書を変えればいいのではないか。小さいころから世界にはいろんな人がいて、(日本とは)違う文化背景を持っていることを子どもに教えたらい。自治体で言ってもダメだと思う。中国、韓国で日本が批判されるのは、小さいときから抗日精神ばかり教えるという風な教育の問題があるから。ところが最近では中国だって変わってきている。草の根で交流が始まると、何か日本人違うな、(教科書で)教ったことと違うな、ということが出てくる。今、日本で外国人と日本人が違うといった(多文化共生、異文化理解)教育はしていないはず。

○委員：以前教育に携わっていたが、20年くらい前から、多文化共生、人権の教育は非常に力を入れていて、自治体でも取り組んでいる。いろいろな考え方があって、日本は根本的に変えていかないと理解してもらえない。子どもはすっきりと理解するが、保護者が理解するのはむずかしいようだった。だんだんと変わってきている(理解が広がっている)と思うが、まだ教育の力が弱いのかな、と自分でも反省している。「郷に入れば郷に従え」というよりも「郷に入れば郷を知れ」、多文化共生は多文化理解から始まる、と徹底的に教えている。

○委員：国レベルでの法整備は余計なお世話という気がする。多文化共生を国レベルで進めるのは上から目線という感じがする。いろんな地域によって求められる多文化共生(の取り組み)は違うはずなので、自治体とか、草の根レベルでの多文化共生を進めることが大事と思う。

ふたたび とう したが 再び、「郷に従え」について

◆日本に住む外国人は2015年12月時点で223万人となり、過去最多を更新。観光目的で来日する外国人も1,968万人を超えるなど急増する中、外国人とともに暮らす社会のあるべき姿についての意見交換。

○事務局：日本に暮らす外国人が増えている現状は否定できない。そうした外国人を排除して(日本人だけで)決めたルールを外国人に押し付けていいのだろうか。(郷に入れば郷に従えについて話し合ってきたが、)「郷」の語源は「村」。村のルールは日本人だけで決めるのか、という問題でもある。勝手に決められたルールを押し付けられるのは誰でも嫌なものではないだろうか。日本人だけで決めるのではなく、外国人も一緒に「郷」を考えて、その「郷」に従っていきましょう、ということが多文化共生会議の目的になっていると思っている。外国人も参画できる仕組みを作っていきましょうということ。

○事務局：外国人にとって「郷」は変わらないものという印象を持たせるものなのか、「郷」が変わった、変わると思わせるようなものを感じたか、その辺、外国人がどう思っているか聞いてみたい。この多文化共生会議のような場で「郷に従え」という言葉を使うと、外国人は日本人のいうことを聞かないといけないよ、みたいな印象を持たせると思う。

自治会のお話

○事務局：大和市内でも自治会に参加しない外国人が多い。昔からの慣習があったり、(外国人の)地域参画は面倒であると多くの人が思っている。日本人でも郷に従えという言葉は堅苦しいと感じるので、反発することもある。今までの議論とは無関係に、そこに住む人たち(市民)がルールを決めるものだと思っている。「郷に入れば郷に従え」という言葉が好ましい表現とは思わない。

○事務局：市内ではおよそ6割の人が自治会に入っている。昔は8割だった。自治会でつくってきたルールに従ってどの地域でも行政と自治会が連携を取りながら、地域の融和を目指してきた。この25年ほどで外国人が増えてきたが、結果として、外国人が自治会に入れるような取り組みは少ない状況がある。それは、外国人が孤立化してしまっている状況でもある。市内でも外国人が入っている自治会も増えてきているので徐々に変わりつつあるが、全体のうち、1ケタほどだろうからまだ少ないと言える。個人的な話をすれば、自分の自治会ではインドの方々が参加し、祭りを盛り上げてくれている。多文化共生と言っても、日本人の関わる地域問題だと言えるのかもしれない。高校生や大学生が自治会の活動に参加すると外国人の人たちも参加しやすくなるはず。

○委員：林間の自治会に加入して20年経った。組長やゴミ出し当番を担当してきた。日本人と外国人と一緒に活動すれば、外国人もルールを理解しやすくなるのではないか。(自分の経験では)外国人はルールを守らなければならないと思うばかりで、何をすればいいのかわからない状態になっている。ゴミ出しの日ではないのにゴミが出されていれば、「あなたではないよね」と周辺のお宅に確認して回らないといけなかった。主人が

ていねん なるので、これから地域の活動に参加したいと思っているが、何をすればいいのかわからない。

(日本語がわかる自分でも何をすればいいのかわからないのだから)日本語が苦手な外国人はなおさらわからないはずだ。他の地域の防災訓練には参加したことがあるのだが、自分の自治会の訓練はどうやって参加したらいいのかわからないので参加したことがない。20年以上住んでいるが、知っているのは周りのお母さんばかりで自治会の人とつながりを作れていない。

○委員：自治会の話は何も外国人だけの問題ではない。日本人である自分でも自治会の話し合いには参加しにくい。

○委員：市外だが、私の住んでいる地区は自治会に入っているのが4世帯しかなく、外国人は私だけ。ゴミ出しでない日にゴミが出されていることがあった。日本人も積極的にならないと外国人が地域に溶け込むことがむずかしい。自治会の行事はすでに決まっているものなので、やらせてもらえない。

○委員：日本に来て道路がきれいでびっくりしたし、ゴミ出しなどがルールで決められているなど日本人の考え方がわかってきた。今は、外国人としてもっと活動して、外国人をアピールしたい。(お互いの)理解がもっともっと深まると思うので、日本人と一緒に活動していきたい。食べ物だったら、日本人も興味を示す。

「あなたはフィリピンに帰った方がいい」と同国人に言うこともある。ここ(日本)にいたら、(ルールを)守らないといけない。新しく引っ越しをした外国人が周りの日本人にあいさつをして、3回して返ってこなかったらあきらめるが、わたしはあいさつが返ってくるまで何回でもトライする。

○委員：来日してすぐのころ、迷子になってしまって、近くの日本人に「すみません・・・」と道をたずねようとしたら、その方が走って逃げて行ってしまったことがある。

○委員：日本の道路も昔は汚かった。われわれ日本人も「郷」とは何なのか、(誰かから)教わったかという、教わっていないと思う。イタリアにいたときに現地の人から教わったことは、(車を運転しているとき)赤信号では絶対に止まてはいけないということ。

(後ろから)追突されるから。そういう言葉を子どもも見たり、聞いたりしている。そういう社会がいいか、悪いかはまた別の話だが、私も自治会の総会に参加したことがあるが、特に若い人はいい意見を言う。(自治会の)長老は聞くふりをしているが、全然聞いていない。会議を始める前からやる内容が決まっている。申し訳ないことだが、外国人の方が参加しても聞く耳を持たないと思う。どうやって変えるかといえば、法律の問題ではなく、そこに住む個々の人々の意識を変えることだと思う。意識を変えようと思ったら、もっと若い人や外国人が参加しないといけない。(自治会の)役員は利権みた

いなもので、同じ人がいつもやっている。表彰してもらえないかと思って一生懸命やっている。異なる意見に対する許容さがない。まずは意見を聞き取ることから始まる。そこができていないのでやめてしまった。

- 委員：日本の社会は何でもやる事が決まってしまうと思う。学校では、中学校、高校に入学したら、修学旅行の日程と行き先がすでに決まっている。自治会もそう。日本ではどんなにいい意見でも一人だけの意見では採用されない。

日本で生きる難民

- ◆カンボジア出身の難民が日本で生きてきた中で、どんな困難を経験してきたのか、などについての新聞記事を紹介し、意見交換を行った。【資料5】
- 事務局：難民が発生したのは特殊な事情があるとは思。普段の生活を送る上で、外国人を受け入れる体制ができていれば、難民を受け入れることもできるのではないだろうか。どうしたら、ルールを守りたいと思っている外国人が(地域に)参画していけるのか、考えていくべきではないか。
- 委員：難民に関して言えば、例えば、ビザ(在留資格)の発給を簡単にしたり、選挙権を与えたり、など外国人に対して門戸を開く姿勢を見せていれば、周辺の(国にいる)外国人も(日本に)入りやすくなるのではないだろうか。現状では日本が閉鎖的だとみなされるのだと思う。
- 委員：日本には難民を受け入れる習慣がない。日本が住みやすい国だということが伝わらない限り、日本には(難民や外国人は)来ないだろう。シリア難民がドイツに向かうのは、ドイツの住みやすさが知れ渡っているから。この会議で日本が住みやすいところだということを広めていかないといけない。

2 スケジュールの確認

次回は4月9日(土)14:00～、同じ市役所分庁舎2階会議室で行う。

いじょう
以上